

# Caution!

## 発掘調査の流れと展示の現状

### 遺跡の発掘調査とは

遺跡の発掘調査は、大きく2段階に区分されます。

第1段階は、遺跡地(屋外)での調査。一般的には、この第1段階が「発掘調査」として認識されていると思います。

屋外での調査は、「土の掘削」が基本的な作業となります。地表下に**堆積した土の層位**を確認しながら掘り進め、住居跡などの**遺構**を検出し、遺構埋土を掘削します。出土した土器や石器などの**遺物**を慎重に取り上げ、写真や図面など**諸記録を作成**し、第1段階が終了します(屋外での調査に関する詳細は、配付資料『第25回企画展 展示図録 ロマン発見～考古学者の鍬～』にてご確認ください)。

さて、遺跡地にて取得した遺物と諸記録は、調査機関(山口大学では埋蔵文化財資料館)に持ち帰られ、第2段階の屋内での調査に移行します。

屋内調査の基本的な作業は、出土資料の整理です。遺物に関しては、**洗浄**に始まり**遺物台帳**の作成、**注記作業**、**接合**、**復元**と地味かつ根気の必要な作業が続きます。復元まで終了すると、お次は**遺物実測**。3次元のもの(遺物)を2次元(実測図)に置き換えます。

遺跡地の諸記録に関しては、**整図**を行うとともに、出土遺物などから遺構の種別や時期、特徴を考察します。そして最終的には、『**発掘調査報告書**』を刊行することにより、遺跡情報を広く世に公開することになります(屋内での調査に関する詳細は、配付資料『第26回企画展 展示図録 ロマン発見～考古学者の筆～』にてご確認ください)。

つまり何が言いたいかというと…実は、皆さんの目につきやすい屋外での調査(第1段階)より、屋内での調査(第2段階)の方がはるかに時間がかかるのです!

よって、今回展示する平成24年度から25年度にかけて実施した調査の出土品は、**未だ整理作業中**のものです。**遺跡の評価も確定していません**。

ということを念頭に置き、**作業中の臨場感あふれる資料の数々を恥ずかしげもなく堂々と並べる奇抜な展示**をご観覧下さい。



遺跡地での発掘調査風景



出土遺物に囲まれ陥落寸前でも何とか踏みとどまる  
当館技術補佐員